

<作成例>

I. 【注の記載方法】

1. 注の打ち方について

注は、本文中の該当箇所の右肩に上付きの小フォント文字で1、2、3…のように順に番号を打つ。注自体は脚注として記載し、一括して通し番号を付ける。

【例】

…親の教育的関わり¹に焦点をあてた場合、…
…が議論されてきたが²、…

【脚注の記載例】

1 ここでは教育的関わりを…
2 わが国においては、メンタルヘルス対策の効果測定として…

2. 割注について

- (1) 本文で参考文献に言及するときは、文中の該当箇所に割注を入れ(以下を参照)、論文本文の後の参考文献リストと対応させる。
- (2) 文中の割注は本文の字数に含める。

3. 割注に関する注意事項

- (1) 著者名は原則として姓だけを記載するが、同姓の著者が複数いる場合には名も記載する。

【例】

…である(石原 2008)。
…である(佐藤俊樹 2000;佐藤博樹 2001)。

- (2) 同一著者の複数の文献を記載する場合には、出版年をカンマ(,)でつなぎ、出版年の若い順に並べる。異なる著者の複数の文献を記載する場合には、セミコロン(;)でつなぎ、出版年の若い順に並べる。

【例】

…である(松原 1994, 2000)。
…である(桜井 1995;今田 1997;江藤 2000)。

- (3) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。

【例】

…である(山田 1994a)。
…と述べている(山田 1994b)。

- (4) 引用ページを記載する場合は、出版年のあとにコロンの(:)を入れて示す。引用ページを記載する必要のない場合は、コロンの下を省略する。引用ページが複数ページにわたり、重複する位の数字があるときは、その記載を省略する(例えば、引用ページが 105 から 113 ページの場合は 105-13)。

【例】

…と述べている(山田 1994:30-48)。

…ことが明らかになっている(高橋 2008:105-13)。

- (5) 共著の場合は、日本語の場合はナカグロ(・)で、外国語の場合は and でつなぐ。
著者が3名以下の共著の場合は、全著者名を書く。
著者が4名以上の共著の場合には、日本語の場合は(ほか)を、外国語の場合は(et al.)を付け、2人目の著者以降を省略する。

【例】

…を示しており(杉浦・荒山 2013)、…
…と述べている(矢口・桜井・田中 2000)。
…と指摘している(Smith and Clark 2000)。
…が明らかになっている(金野ほか 2009)。
杉浦・荒山(2013)によると…
高橋・平野・金井(2015)は…
金野ほか(2009)が指摘するように…
Smith, Clark and Winchester(2006)は…
Smith et al.(2005)は…

- (6) 編著書を記載する場合は、以下のように示す。

【例】

…ことが明らかにされている(直井編 1998)。
…が示されている(外島・田中編 2000)。
…指摘しており(猪口ほか編 2005)、

- (7) 訳書の場合には、原書の出版年と訳書の出版年をイコールでつなぐ。

【例】

…と述べている(Hochschild 1997=2017:371)。

- (8) 本文でウェブページに言及するときは、文中の該当箇所に割注を入れ、論文本文の後の URL リストと対応させる。URL リストでは各 URL に1, 2, 3, …のように順に番号を打ち、本文の後に一括して通し番号で記載する。URL リストの詳細は後述の「ウェブページ」を参照のこと。

【割注の例】

…ことが報告されている(URL1)。
厚生労働省(URL2)によると…

【上記割注に対する URL リストの書き方】

1. 総務省(2012)「平成 24 年科学技術研究調査調査の結果結果の概要」総務省ホームページ(2015 年 11 月 15 日閲覧、<http://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka>)。
2. 厚生労働省(2013)「平成 25 年 10 月 29 日付第 93 回労働政策審議会職業安定分科会雇用保険部会資料資料 No.3 育児休業給付について」厚生労働省ホームページ(2016 年 1 月 14 日閲覧、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000027874.html>)。

II. 【参考文献および URL リストについて】

1. 参考文献の扱い方については指導教員と十分相談すること。リストは日本語文献、外国語文献、URL 等の3カテゴリーの順に分け、日本語の場合は著者姓の 50 音順に、外国語の場合は著者姓(ラストネーム)のアルファベット順に並べる。URL は本文での引用順に並べる。
2. 未刊行論文は掲載可になった論文のみ参考文献に含めることができる。(自身の論文で掲載可となっているものを用いる場合は、博士論文提出の際に出版元の証明書を添付すること。)

Ⅲ.【日本語文献の書き方】

1. 論文の場合

著者名(出版年)「論文題名」『雑誌名』巻数(号数)、開始頁-終了頁。

- (1) 共著の場合は、著者名をナカグロ(・)でつなく。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 題名に副題がある場合は、主題と副題を全角マイナス(-)でつなく。
- (4) 巻数と号数が両方ある場合は号数のみ()に入れて示す。どちらか一方の場合は数字のみ示す。(以下の例を参照)
- (5) 開始頁と終了頁に重複する位の数字があるときは、その記載を省略すること。(例えば、843 ページから 865 ページの場合は 843-65 のように示す。)

【例】

玄田有史・神林龍・篠崎武久(2001)「成果主義と能力開発-結果としての労働意欲」『組織科学』34(3)、18-31。

永瀬伸子・長町理恵子(2002)「教育コストの変化と家計構造」『社会科学研究』53(5)、179-93。

橋本智子(1997a)「高学歴女性の雇用」『家族研究』48、49-58。

橋本智子(1997b)「女性の職業選択」『人口問題』55(2)、1-18。

三谷直紀(2006)「企業の最適世代構成と人材戦略」『日本労働研究雑誌』550、4-16。

山室敦嗣(1998)「原子力発電所建設問題における住民の意思表示-新潟県巻町を事例に」『環境社会学研究』4、188-203。

綿貫譲治(1994)「比較論・国際関係論的に見た日本の政治と社会」『社会学評論』45(2)、158-71。

2. 単行本の場合

著者名(出版年)『書籍名』出版社名。

- (1) 共著の場合は、著者名をナカグロ(・)でつなく。著者が3名以上の場合、以下の例のように著者名をナカグロでつなく。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 書籍名に副題がある場合は、主題と副題を全角マイナス(-)でつなく。

【例】

今野浩一郎・佐藤博樹(2002)『人事管理入門』日本経済新聞社。

佐野勝男・榎田仁・関本昌秀(1987)『新・管理能力の発見と評価』金子書房。

宮川雅巳(2004)『統計的因果推論-回帰分析の新しい枠組み』朝倉書店。

3. 編著書の場合

編者名(編)(出版年)『書籍名』出版社名。

- (1) 共編著の場合は、著者名をナカグロ(・)でつなく。編者が3名以上の場合、以下の例のように著者名をナカグロでつなく。

- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 書籍名、章の題名に副題がある場合は、主題と副題を全角マイナス(-)でつなぐ。

【例】

猪口孝・田中明彦・恒川恵市・薬師寺泰蔵・山内昌之(編)(2005)『国際政治事典』弘文堂。
 大沢武志・芝祐順・二村英幸(編)(2000)『人事アセスメントハンドブック』金子書房。
 辻平治郎(編)(1998)『5因子性格検査の理論と実際』北王路書房。
 正岡寛司・望月嵩(編)(1988)『現代家族論』有斐閣。

4. 編著書の一部の章を参考文献とする場合

著者名(出版年)「章の題名」編著者名『書籍名』開始頁-終了頁または章番号、出版社名。

- (1) 共編著の場合は、著者名をナカグロ(・)でつなぐ。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 書籍名、章の題名に副題がある場合は、主題と副題を全角マイナス(-)でつなぐ。
- (4) 開始頁と終了頁に重複する位の数字があるときは、その記載を省略すること。(例えば、843 ページから 865 ページの場合は 843-65 のように示す。)

【例】

井上真(2009)「自然資源『協治』の設計指針-ローカルからグローバルへ」室田武編『グローバル時代のローカル・コモンズ』3-25、ミネルヴァ書房。
 今城志保・藤村直子(2000)「職務遂行行動の測定ツール」大沢武志・芝祐順・二村英幸(編)(2000)『人事アセスメントハンドブック』340-54、金子書房。
 玄田有史(1994)「高学歴化、中高年化と賃金構造」石川経夫編『日本の所得と富の分配』第5章、東京大学出版会。

5. 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合の注意点

同一著者による同一出版年の論文、単行本、編著書の章については、出版年の後に共通の通しアルファベット(a, b, c順)を付けるが、編著書については別扱いとなることに注意すること。

【例】

鈴木一郎(2000a)「日本における□□」△△△研究』25、xx-xx。
 鈴木一郎(2000b)『現代日本の□□構造』○○社。
 鈴木一郎(2000c)「□□と所得格差」○○編『日本の△△△』x-xx、○△書房。
 鈴木一郎(編)(2000)『現代○○論』○△書店。

6. 法律、判例、通達の掲載の仕方

法律、判例、通達の掲載の仕方については、指導教員と相談すること。

【法律、通達を掲載する場合の例】

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(平成 22 年法律第 36 号)
 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律施行令」(平成 22 年政令第 203 号)
 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律施行規則」(平成 22 年農林水産省令第 51 号)
 「公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」(平成 22 年 10 月 4 日農林水産省、国土交通省告示第 3 号)
 林野庁長官通知「木材製造高度化計画等認定事務取扱要領」(平成 22 年 10 月 4 日付け 22

IV. 【外国語文献の書き方】

外国語文献は著者の姓(ラストネーム)のアルファベット順に並べること。
英語以外の言語を用いた文献の扱い方(著者名、編著者、論文題名、雑誌名、書籍名等の日本語訳・英語訳の要否、文献を並べる順序等)については必ず指導教員と相談すること。

1. 雑誌論文の場合

著者名(ラストネーム, ファーストネームイニシャル, ミドルネームイニシャル, [ある場合]の順)
(出版年)論文題名. 雑誌名(イタリック), 巻数(号数), 開始頁-終了頁.

- (1) 共著の場合は、著者名を and でつなぐ。3名以上の共著の場合には、最終の著者名のみ and でつなぎ、その他はカンマ(,)でつなぐ(以下の例を参照)。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 論文題名の各単語の最初の文字は大文字にする。本題および副題の文頭にこない接続詞や前置詞(例えば、and, by, for, from, in, of, to, under, with)、および冠詞(a, an, the)は小文字にする。
- (4) 雑誌名の各単語の最初の文字は大文字にする。
- (5) 巻数と号数が両方ある場合は号数のみ()に入れて示す。どちらか一方の場合は数字のみ示す。(以下の例を参照)
- (6) 開始頁と終了頁に重複する位の数字があるときは、その記載を省略すること。(例えば、843 ページから 865 ページの場合は 843-65 のように示す。)

【例】

- Arthur, M. B. (1994) The Boundaryless Career: A New Perspective for Organizational Inquiry. *Journal of Organizational Behavior*, 15(4), 295-306.
- Behson, S. J. (2002a) Coping with Family-to-Work Conflict: The Role of Informal Work Accommodations to Family. *Journal of Occupational Health Psychology*, 7(4), 324-41.
- Behson, S. J. (2002b) Which Dominates?: The Relative Importance of Work-Family Organizational Support and General Organizational Context on Employee Outcomes. *Journal of Vocational Behavior*, 61, 53-72.
- Collins, R. (1997) An Asian Route to Capitalism: Religious Economy and the Origins of Self-Transforming Growth in Japan. *American Sociological Review*, 62, 843-65.
- Delery, J. E., and Doty, D. H. (1996) Modes of Theorizing in Strategic Human Resource Management: Tests of Universalistic, Contingency, and Configurational Performance Predictions. *Academy of Management Journal*, 39(4), 802-35.
- Kraut, R., Kiesler, S., Boneva, B., Cummings, J., Helgeson, V., and Crawford, A. (2002) Internet Paradox Revisited. *Journal of Social Issues*, 58(1), 49-74.

2. 単行本の場合

著者名(出版年)書籍名(イタリック), 出版社名.

- (1) 共著の場合は、著者名を and でつなぐ。3名以上の共著の場合には、最終の著者名のみ and で

- つなぎ、その他はカンマ(,)でつなぐ(以下の例を参照)。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
 - (3) 書籍名の各単語の最初の文字は大文字にする。書籍名の始めにこない接続詞や前置詞(例えば、and, by, for, from, in, of, to, under, with)、および冠詞(a, an, the)は小文字にする。

〈原書の場合〉

【例】

Becker, H. S. (1963) *Outsiders*, Free Press.
 Bond, J. T. (2003a) *Childhood in Transition*, Families and Work Institute
 Bond, J. T. (2003b) *Issues in Pediatric Nursing*, Academy of Sciences.
 Herzberg, F., Mausner, B., and Snyderman, B. B. (1959) *The Motivation to Work*,
 John Wiley & Sons.
 Meyer, J. P., and Allen, N. J. (1997) *Commitment in Workplace*, Sage.

〈訳書がある場合〉

- ・以下の例のように記し、外国語文献に含めること。
- ・訳書の出版年は以下の例のようにイコールを付けて示すこと。

【例】

Hochschild, A. R. (1983) *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*, University of California Press. (=2000、石川准・室伏亜希訳『管理される心—感情が商品になるとき』世界思想社。)
 Putnum, R. D. (2000) *Bowling Alone: The Collective and Revival of American Community*, Simon and Schuster. (=2006、柴内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房。)
 Schor, J. B. (1992) *The Overworked American: The Unexpected Decline of Leisure*, Basic Books. (=1993、森岡孝二・青木圭介・成瀬龍夫・川人博訳『働きすぎのアメリカ人—予期せぬ余暇の減少』窓社。)

3. 編著書の場合

編著者名(ひとりの場合 ed., ふたり以上の場合 eds.) (出版年) 書籍名(イタリック), 出版社名.

- (1) 共編著の場合は、編者名を and でつなぐ。3名以上の共編著の場合には、最終の編者名のみ and でつなぎ、その他はカンマ(,)でつなぐ(以下の例を参照)。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
- (3) 書籍名、章の題名に副題がある場合は、主題と副題を全角コロン(:)でつなぐ。

【例】

Lamb, M. E. (ed.) (1997) *The Role of the Father in Child Development*, Wiley.
 Schaufeli, W. B., Maslach, C., and Marek, T. (eds.) (1993) *Professional Burnout: Recent Developments in Theory and Research*, Taylor and Francis.

4. 編著書の一部の章を参考文献とする場合

著者名(出版年)章の題名. In 編著者名(ひとりの場合 ed., ふたり以上の場合 eds.) 書籍名(イタリック), 開始頁-終了頁, 出版社名.

- (1) 共編著の場合は、編者名を and でつなぐ。3名以上の共編著の場合には、最終の編者名のみ and

- でつなぎ、その他はカンマ(,)でつなく(以下の例を参照)。
- (2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a, b, c順)を付けて区別する。
 - (3) 書籍名、章の題名に副題がある場合は、主題と副題を全角コロン(:)でつなく。
 - (4) 開始頁と終了頁に重複する位の数字があるときは、その記載を省略すること。(例えば、843 ページから 865 ページの場合は 843-65 のように示す。)

【例】

Ostroff, C., and Bowen, D. E. (2000) Moving HR to a Higher Level: HR Practices and Organizational Effectiveness. In K. J. Klein and S. W. J. Kozlowski (eds.) *Multilevel Theory, Research, and Methods in Organizations*, 33-54, Jossey-Bass.

5. 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合の注意点

- (1) 同一著者による同一出版年の論文、単行本、編著書の章については、出版年の後に共通の通しアルファベット(a, b, c順)を付けるが、編著書については別扱いとなることに注意すること。

【例】

Bray, M. (2000a) Assessing the Effects of Wage on Family Decisions. *Journal of Xxx*, 35, xxx-xxx.

Bray, M. (2000b) *Gendered Social Stratification*, University of Xxx Press.

Bray, M. (2000c) Female Labor Force Participation and Transformation of Family Structures. In J. L. Glass (ed.) *Work and Families*, 58-89, University of Xxx Press.

Bray, M. (ed.) (2000) *Social Demography*, xxx Publishing Ltd.

V. 【電子書籍および電子ジャーナル掲載論文の書き方】

論文で引用または参照されている電子書籍や電子ジャーナルの掲載論文については、すべて参考文献リストに記載すること。

電子書籍および電子ジャーナル掲載論文は日本語文献または外国語文献のリストに入れること。また、必ず取得／閲覧した年月日および URL を示すこと。

1. 電子書籍

著者名(出版年)『タイトル』(紙媒体の刊行年, 出版社)電子媒体出版社(取得／閲覧年月日、URL)。

- (1) 電子書籍については、紙媒体の書籍の場合と同じ書誌情報に加え、その書籍を閲覧したさいに用いた媒体の種類を明示する(なお、インターネット利用の場合は URL と取得または閲覧日を記載)。

【例】

藤竹暁(2006)『図説日本のマスメディア(上)新聞・放送・出版』(2005、日本放送出版協会刊)電子書店パピレス(2007年12月10日取得、<http://www.papy.co.jp/sc/list/genre/030-043-020-000?page=2>)。

2. 電子ジャーナル掲載論文

(1) 日本語

著者名(出版年)「論文のタイトル」『電子ジャーナル名』巻(号)、開始頁-終了頁(取得/閲覧年月日、URL またはデータベース名)。

紙媒体と電子媒体の両方で提供されている雑誌を、電子媒体で利用した場合

【例】

上野千鶴子(2008)「家族の臨界-ケアの分配公正をめぐって」『家族社会学研究』20(1)、28-37(2010年1月22日取得、
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjoffamilysociology/20/1/contents/-char/ja/>)。

(2) 外国語

著者名(出版年)論文のタイトル電子ジャーナル名(イタリック)巻(号)、開始頁-終了頁、(取得/閲覧年月日、URL)。

【例】

Gabb, J. (2009) Researching Family Relationships: A Qualitative Mixed-Methods Approach, *Methodological Innovations Online*, 4(2), 37-52, (Retrieved on January 22, 2010, <http://www.methodologicalinnovations.org/viewissue.html>).

3. ウェブページ

著者名(最終更新年)「タイトル[ある場合]」ウェブサイト名(取得/閲覧年月日、URL)。

- (1) ウェブサイト上に掲載されたウェブページについても、同様に資料情報を記載する。発表年(最終更新年)に加えて取得/閲覧した年月日(アクセス日)を記載すること。タイトルは、サイト全体のタイトル(ホームページのタイトル)ではなく、ウェブページのタイトルを記載すること。
- (2) 本文での引用順に並べる。
- (3) URL のリストでは、以下のように各 URL の始めに1. 2. 3. …の番号をうち、一括して通し番号で記載すること。

【例】

1. 厚生労働省(2013)「平成25年10月29日付第93回労働政策審議会職業安定分科会雇用保険部会資料資料 No.3育児休業給付について」厚生労働省ホームページ(2016年1月14日取得、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000027874.html>)。
2. 総務省(2012)「平成24年科学技術研究調査調査の結果結果の概要」総務省ホームページ(2015年11月15日閲覧、<http://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka>)。
3. 日本生産性本部(2015)「提言「生涯輝き基盤」によるイノベーションの創出～少子高齢社会の課題解決に向けて～」日本生産性本部ホームページ(2016年1月17日取得、<http://activity.jpc-net.jp/detail/isd/activity001435.html>)。

4. ブログ

著者名最終更新年「タイトル」ブログ名記事作成日(取得/閲覧年月日、URL)。

- (1) ブログについては、ブログ記事の作成日を文献情報に含め、記事が固有の URL (固定リンクまたはパーマリンク) をもつ場合はそれを記載する。また、「タイトル」には、ブログの名称ではなく言及した記事のタイトルを記載する。

【例】

上野千鶴子(2012)「ちょっといい話-底辺校の現場から」ちづこのブログ 2012年4月16日
(2013年7月5日取得、<http://wan.or.jp/ueno/?p=1501>)。